

2012 年度「教育制度論」総括

学校教育(教育学)

山本久雄

今年度も「教育制度論」を取り上げる。授業改善のための試行錯誤の中で、いわば定点観測により評価結果に影響を与える要因を抽出するに有効だと思われるからである。

1. 授業の概要

授業の、シラバス上の目的、到達目標、内容は、毎年書いていることなので繰り返さない。学部のディプロマ・ポリシー（以下、DP）との関連でいえば、本授業は「1. 教育に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。（知識・理解）」と「2. 教育をめぐるさまざまな現代的課題について論じ、適切な対応を考えることができる。（思考・判断）」に貢献するはずのものである。

受講学生は、登録上 94 名、学校教育教員養成課程（教育、心理、幼年、国語、音楽、保体、英語の各専修）及び特別支援教育教員養成課程の 1 回生である（その他に 2 回生以上が 7 名）。

毎回、教授内容を簡潔にまとめ、資料（法令条文、新聞記事、統計資料）、発展学習のための情報（書名、URL）を刷り込んだプリントを各回の授業開始前に配布し、それに沿って講義形式ですすめた。そして、例年通り、毎回の授業の最後に小紙片にまとめを記してもらった。

成績評価は毎回の小紙片、期末の筆記試験により行った。期末試験の平均正答率は約 67%であった。

今年度も、プリントの充実に努めた。よくまとめられ、しかも発展学習の情報が盛り込まれたプリントは、授業時の理解に資するだけでなく、復習や発展学習を促し学習の定着・深化にも資する。この観点から今年度も内容の精選・整理、見出し番号の見直し・整理、脚注の活用による重要度の階層化の明確化、プリント内参照ページの

表示による内容の一貫性の明示、関連データ・記事の更新などにつとめた。それを綴じやすいように全て A 4 サイズに印刷し、今年度は、その残部のプリントはいつでも希望者に配布する旨伝えた。

2. アンケート結果

(1) 授業者独自のアンケート

第 14 回目の授業でアンケート調査を実施した。昨年度と同様、以下の質問項目について「①強い肯定」、「②肯定」、「③否定」、「④強い否定」のうち一つを選んでマークしてもらった。むろん、無記名である。7 は昨年と同趣旨であるが、表現を少し変えた。

- 1 この授業の目的は、教室での指導・学習が行われるための「教室の外」での配慮を理解する、ということだったのですが、あなたは総じて授業内容を把握できましたか。
- 2 この授業ではプリントを配布しましたが、このプリントは「教育制度論」の学習に役立ちましたか。
- 3 あなたは授業時間外にそのプリントを読む、挙げられているWEBページにアクセスする、などプリントを学習に活用しましたか。
- 4 プリントは1週間前に配布した方がよいと思いますか。
- 5 この授業で新しい知識は得られましたか。
- 6 この授業の内容には興味を持ってましたか。
- 7 あなたは、教職に就くことを希望していますか。
- 8 授業外学習を促進するため、毎回、宿題を出した方がいいと思いますか。
- 9 あなたの食事、睡眠、生活リズムはいい状態にありますか。

このうち、1, 5 は授業の主目的としての知識・理解を問うもの、2 は充実に努めたプリントの評価・活用に関するもの、3, 4, 6, 8 は学習意欲の喚起に関するもの、そして 7, 9 はこれらの背後にあって学習の成否を規定する要因にかかわるものである。

以下にこの3年間の集計結果を示す。「平均」は①, ②, ③, ④の回答数にそれぞれ4, 3, 2, 1 を乗じ, その和を回答総数で除した値である。

		選択肢 (%)				平均
		①	②	③	④	
質問 1	22年度	9.2	78.0	12.8	0.0	2.96
	23年度	8.5	65.3	20.3	5.9	2.75
	24年度	9.6	79.5	11.0	0.0	2.99
2	22	56.0	39.0	3.5	1.4	3.50
	23	44.5	47.9	5.0	2.5	3.35
	24	64.9	33.8	1.4	0.0	3.64
3	22	2.1	28.4	42.6	27.0	2.06
	23	2.5	27.7	47.9	21.8	2.13
	24	14.9	36.5	43.2	5.4	2.61
4	22	4.9	22.8	72.4	0.0	2.33
	23	2.5	26.9	59.7	10.9	2.20
	24	9.6	24.7	57.5	8.2	2.36
5	22	70.9	24.1	2.1	2.8	3.63
	23	45.4	50.4	2.5	1.7	3.40
	24	68.9	31.1	0.0	0.0	3.69
6	22	24.1	56.0	13.5	6.4	2.98
	23	15.1	49.6	26.1	9.2	2.72
	24	28.4	60.8	10.8	0.0	3.18
7	22	44.0	34.8	16.3	5.0	3.18
	23	52.9	31.9	10.9	4.2	3.34
	24	45.8	43.1	8.3	2.8	3.32
8	22	2.1	18.4	47.5	31.9	1.91
	23	0.8	16.8	45.4	37.0	1.83
	24	2.7	21.6	58.1	17.6	2.09
9	22	6.9	45.8	34.0	13.2	2.48
	23	11.8	33.6	39.5	15.1	2.43
	24	6.8	45.9	37.8	9.5	2.50

結果は, 総じて例年と同様の傾向を示すが, そのスコアは, 昨年のそれを上回るものであった。とりわけ, この授業のメインの目的である内容の把握, 新しい知識の獲得, 内容への興味, 授業者が特にこだわったプリントの有用性についてはいずれも高いスコアが得られた。また, 授業外でのプリントの活用, プリントの事前配布希望, 宿題の希望については, まだまだ満足すべきスコアではなかったが, いずれも前年を上回った。

また, 例年に倣い, 各質問への回答の間の相関を探ってみた。明らかに正の相関が認められる (相関係数 0.3 以上) のは以下である。極めて常識的な結果である。

- ・「内容把握」と「新知識得た」
- ・「プリント有用」と「新知識得た」
- ・「プリント活用」と「内容に興味」

- ・「新知識得た」と「内容に興味」
- ・「事前配布希望」と「宿題希望」

(2) 「DPによる授業評価」

これは受講学生がこの授業の学部 DP への貢献度を評価するものである。各 DP を 2 項目に分け, それぞれについて授業の貢献度を 4 段階 (「①十分貢献した」, 「②貢献した」, 「③あまり貢献しなかった」, 「④ DP とは無関係であった」) で評価する。授業の第 14 回目で実施した。その結果は以下であった。

		④	③	②	①
DP1	A	46.2	52.6	1.3	0.0
	B	21.8	62.8	12.8	2.6
DP2	A	41.0	55.1	3.8	0.0
	B	26.9	57.7	15.4	0.0
DP3	A	11.5	56.4	24.4	7.7
	B	12.8	42.3	33.3	11.5
DP4	A	16.7	69.2	11.5	2.6
	B	15.4	55.1	28.2	1.3
DP5	A	25.6	69.2	3.8	1.3
	B	12.8	47.4	29.5	10.3

授業が DP1A (教育に関する知識の修得), DP2A (教育をめぐる現代的諸課題の理解) に貢献していたとする回答は納得できるものであるが, DP5A (専門的職業人としての使命感や責任感の形成) が案外高いスコアを示すのはいかなる所以か。毎度のことながら, 授業者の意図と学生の受け止め方の差異に戸惑う。

3. 総括

データに基づく評価結果は以上の通りであり, これはこれで改善を動機づけるものであるが, 今年度についてはさらに一点, 例年になく, 試験の採点后に試験結果を確かめに来る受講生が多かったことを付記しておきたい。これは, 彼・彼女らが授業及び試験に真摯に取り組んだことを物語るものであろうが, こうしたことは授業者に授業改善を更に動機づけるものである。お互いに刺激しあってお互いに高まり成長する, 今年度は授業を通じ, そのことの重要性に改めて気づくことができた。

